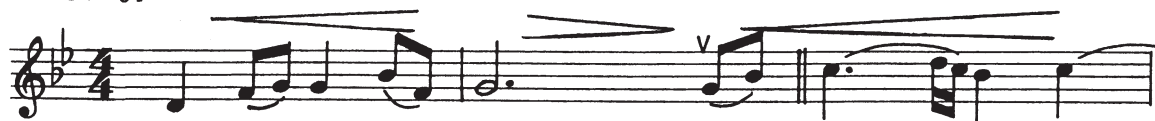


第十番 香久山法然寺の御詠歌（樂邦調）

（かぐ山の御詠歌）

松 濤 基 作曲

♩ = 54



〔詠頭〕 × × × × 〔斉唱〕 × ×
 ご く ら くー へ つー と ー め て



× × ○ × ○ × ○ × × ○ ○ × ×
 ー は やー く いー で ー た ー た ー ば ー み の お わ り ー



○ × × ○ × ○ × ○ × × ○ × ⊗ ×
 に ー は まー い ー り ー つ ー きー な ん

第十番 大和の国 香久山 法然寺

極楽へ つとめて早く 出で立たば 身の終り^{をわ}には 参りつきなん
(法然上人御作)

元久2年(1205)3月、法然上人73歳の時、高野山へ参詣された帰途、聖徳太子生誕の地である橘寺へ巡拝され、この地の小庵(少林院)に逗留され、有縁の人々を教化された旧跡であります。大永8年(1528)、知恩院第二十六世保誉源派上人が夢で法然上人より「香久山や ふもとの寺は せまけれど 高き^{のり}み法を ときて^{ひろ}弘めむ」というお歌を賜り、寺号を法然寺と改め、専修念仏を行じて人々を教化されました。御本尊の阿弥陀如来は御足と蓮台との間に隙間があることから、「浮き足如来」と尊称されています。

大意 極楽は西方十万億土のはるか彼方と説かれています。しかし、旅が朝早く出立するのが習いとなっているように、極楽浄土への旅立ちも早く発心してお念仏に励みましたら、命終わるとき阿弥陀さまのお迎えをうけ、必ずお浄土に参りつけるのです。年が老いるのを待って初めて道を学ぼうなどと思ってはなりません。今から直ちにお念仏の信仰の道に励みなさい。

ポイント注意

- 「みのおわり」は、「美濃・尾張。身の終り」と聞こえるように言葉を句切りましょう。